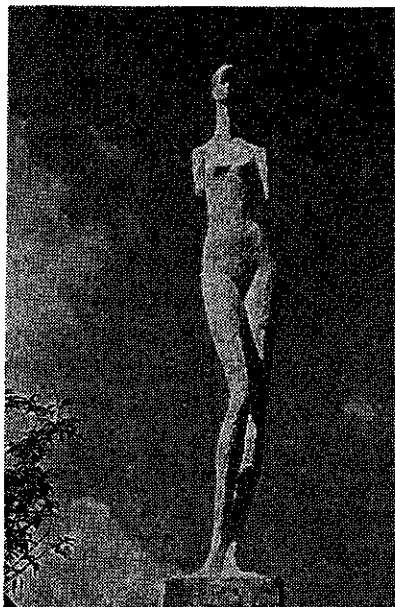


部・同好会の歴史

美術部

水島工業高校と言えば、男子生徒がほとんどであるので、部活動は、運動部が中心であり、文化部はその影にかくれて、あまり存在感がないと思いつながら、本校に着任した。しかしおどろいたことは、運動部はもちろん、文化部に対しても同じように関心を持ち、力を入れて指導する学校の姿勢があったことである。この素晴らしい環境の中での美術部は、前任者の森下先生が素晴らしい指導をされていた事と、もう一つ彫塑指導に力を入れていたのが現在の美術部の特色の一つとして、今でも受けつがれていることである。現在の美術部の主な活動内容は、油絵、水彩画、彫塑作品を中心に、文化祭、岡山県高等学校連合美術展、創作展に作品を発表することや、大原美術館の作品鑑賞、文化祭、創作展等のポスター制作等である。美術部員はこれらの発表の場を目標に、制作にコツコツはげんでいる。絵画制作では、油絵を描く部員が多く、毎年三十号ぐらいから中には百号の大作に取り組む者も数名いる。彫塑作品は彫塑制作が主になっているが、これも等身大の大作に取り組むものが毎年何人かいる。これらの制作活動を通して美術部は次のような成果をあげている。

水工文化祭に於ては、美術部が中心的役割を果たし毎年文化祭前には二泊三日の合宿を行い、制作の仕上げに取り組み、準備を行いすばらしい展示をしている。又、岡山県高等学校連合美術展では、常に作品入選数に於て県下で上位二、三番目に多い成績を出している。又この展覧会



での水工の彫塑作品は他校に見られないユニークな作品、あるいは大作を出品し入選することで特色をもっている。そしてこの展覧会入選作品の中から優秀作品三点が選ばれ、全国高校文化祭に出品されるのであるが、その中に水工美術部員の作品が、三年間連続選ばれ参加していることは、すばらしい成果であると思う。

又昨年（昭和56年）には倉敷駅西ビル二階の展示場で、水工美術部展を独自で開くこともできました。このような活動を通して、美術部員は、地味ではあるが、誰もが簡単に体験できない活動をしている。例えば油絵の百号を描くということや、等身大の彫塑作品を制作する事等は高校生としてはもちろん、大学生でもめったにできない体験である。私は部員のこれらの制作活動を通して、ただ上手な作品あるいは展覧会に入選する作品を目標にするのでなく、作品制作の中で、言葉では言い現わせないことを表現しようとする態度を養ってやりたいと思うのです。

高校生という若者の時代には、本人に気がつこうが、つくまいが、生きていくために何か真実を求め、追求しなければならぬものが芽ばえていると信じます。この若者の時代にしかない何かを、今まで体験したことのない大きなキャンパスや粘土のかたまりの中に、無心に体当たりすることにより、表現活動のすばらしさをつかませてやりたいと願っています。そのために今後も、伸び伸びした中にも、きびしさのある美術部活動ができるようがんばりたいと思います。

（顧問 渡辺記）